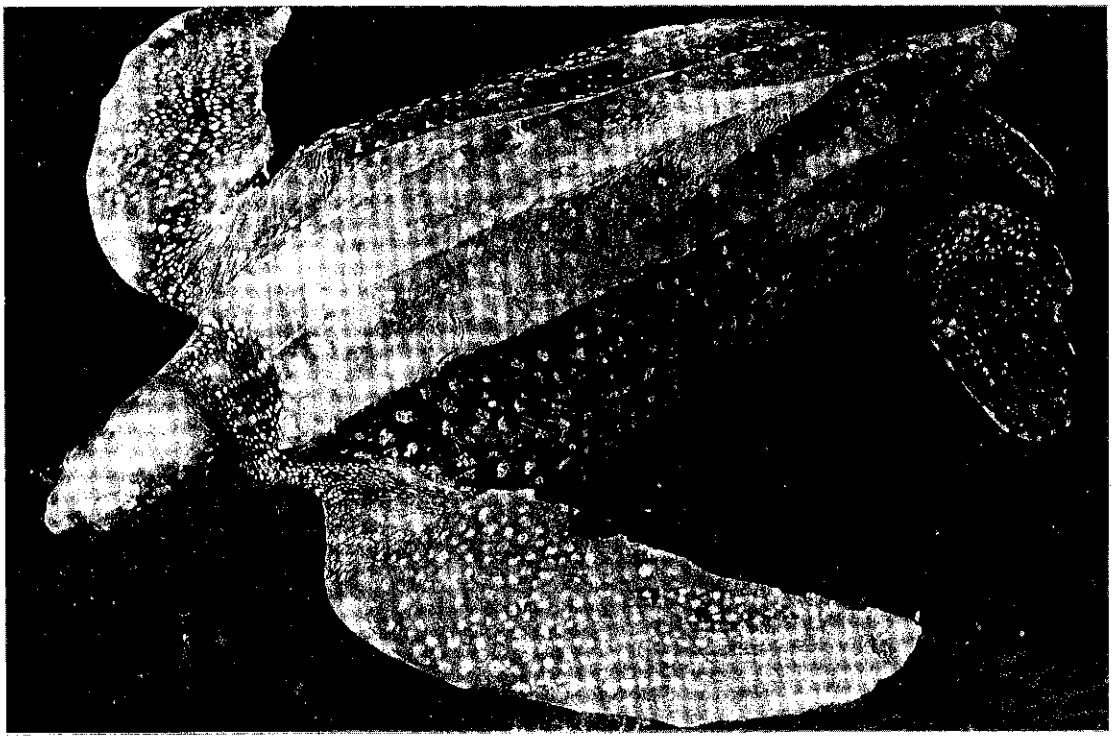
ISSN 1341-6928

串本海中公園 マリンパビリオン

1999. 5. Vol. 28, No. 5



オ サ ガ メ

***Dermochelys coriacea* (Vandelli)**

世界中の海洋に広く分布する種で、西部太平洋域における繁殖地はマレーシアが知られるが、近年の繁殖状況は壊滅状態に近いとされている。我が国では発見例が少なく、和歌山県串本町海域では過去27年間に５頭が記録されており、うち１頭は直甲長113.5～144.0cm、体重155kg（検量は１個体のみ）であった。本種の形態は他のウミガメ類と異なり、全体が皮膚で覆われて角質の鱗（鱗板）が認められず、黒色の地に不定形の大小の白斑が散在する。また前・後肢では前縁部の爪を欠き、上顎の先端がキバ状で、背甲上にキール状の７本の隆起を持つ。成体の食性はクラゲ類などの浮遊動物で、高緯度の低水温域での生活や深海潜水などに対しても適応力がある。飼育下における本種は水槽壁への衝突を繰り返し、短期間で死亡する例が多い。写真は1983年に串本町の定置網に迷入し、当センターにおいて６ヶ月間飼育された個体。オサガメ科。Ｉ．Ｍ.

串本海中公園センター

ANTHOZOOLOGIA (75) 八放サンゴ類　その6

ステラケミファ（株）研究部　岩瀬文人

前回に引き続き、ウミトサカ科の第5属、ウミイチゴ属から。

Genus 5. *Bellonella* Gray, 1862

ウミイチゴ属

短い円筒形の柄部の上に指状、円錐状、鞭状などの形の冠部がある。冠部は細長くて分岐しないことが多いが、稀に分岐することもある。ポリプは単型で、莢の中に退縮する。骨片は紡錘形、棍棒形、糸巻形、球形など。骨片の形状によって、紡錘形又は棍棒形の骨片を持つ*Bellonella*と糸巻形又は球形の骨片を持つ*Eleutherobia*の2亜属に分けられる。主に熱帯から温帯の世界中の海から30種足らずが知られており、我が国からは8種が知られている。

Genus 6. *Carotalcyon* Utinomi, 1952

ニンジントサカ属

円筒形の柄部の上に多数の指状突起からなる冠部があり、冠部は柄部の中に退縮する。冠部の指状突起には多数のポリプが分布する。ポリプは通常ポリプと管状ポリプの二型。通常ポリプは疎らに分布し、退縮すると指状突起の中に完全に隠れる。通常ポリプの間には多数の管状ポリプがあり、生殖腺は管状ポリプにのみ発達する。柄部の表皮は厚い結合組織でできており、表面に多数の骨片が分布することはない。我が国の相模湾から*Carotalcyon sagamianum*ニンジントサカ1種のみが知られている。

Genus 7. *Cladiella* Gray, 1869

ノウトサカ属

群体は背が低く、一般に高さよりも幅が勝る。短い柄部の上に指状の突起が多数集まってできている冠部があり、冠部の指状突起は伸長時は長い円錐形で分岐することもあるが、収縮時には丸いコブ状になる。ポリプは単型で、冠部の共肉中に完全に退縮する。骨片は小さな亜鈴形。40種以上が熱帯インド－西太平洋の比較的浅い海域から記録されており、サンゴ礁域において普通に見られる構成種である。我が国からは6種が知られている。

Genus 8. *Inflatocalyx* Verseveldt & Bayer, 1988

群体形はウミイチゴ属に似ており、短い円筒形の柄部の上に分岐しない指状の冠部がある。ポリプは単型で、大きく膨らんだ莢の中に退縮する。骨片は概ね滑らかな紡錘形で、ポリプの花頭部には密に分布するが、群体の他の大部分には非常に疎らに分布している。大西洋の南極近海から*Inflatocalyx infirmata* 1種のみが知られている。

Genus 9. *Lobophytum* Marenzeller, 1886

ウネタケ属

多くの場合、群体は平たい円盤状で、上面には指状、ウネ状、トサカ状などの突起があり、中心部から外に向かって放射状に配置することが多いが、特に小型の群体では塊状やキノコ状になることもある。直径1mを超える巨大な群体を形成することがある。ポリプは二型で、群体上面に密に分布する。群体の側面にはポリプは分布しない。共肉の骨片は後述するウミキノコ属に似ており、小さな紡錘形又は棍棒形で、一般に長さ0.4mm以下。褐虫藻が共生しており、群体の色彩は淡黄褐色から褐色のものが多い。太平洋からインド洋の、主として熱帯海域から50種足らずが知られており、サンゴ礁域において普通に見られる構成種である。我が国からは7種が知られている。

Genus 10. *Malacacanthus* Thomson, 1910

円筒形の柄部の上に半球形の冠部がある。柄部の表面は角質の表皮に覆われている。ポリプは二型で、冠部の表面に密生する。ポリプには莢がなく、冠部の共肉中に退縮する。骨片はない。南アフリカから*Malacacanthus*

capensis *1種のみが知られている。*

Genus 11. *Minabea* Utinomi, 1957

ミナベトサカ属

群体は指状で、短い柄部の上に分枝しない冠部が先端に向かって徐々に細くなり、先端は丸い。ポリプは二型で、冠部全体に一様に分布する。比較的大きな通常ポリプには骨片はなく、共肉中に完全に退縮する。管状ポリプは小さく、通常ポリプの間に分布するが、あまり密ではない。骨片は糸巻形のものが優占するが、紡錘形や棒形のものもある。インド－太平洋海域から3種が知られており、内2種は我が国に産する。

Genus12.*Pseudoanthomastus* Tixier-Durivault & d'Hondt, 1974

群体は円筒形の柄部の上に大きく張り出した冠部がある典型的なキノコ形。ポリプは単型で、非常に大きい。骨片は亜鈴形と細長い針形。大西洋と太平洋の深海から各1種ずつが知られている。我が国からは知られていない。

Genus 13. *Sarcophyton* Lesson, 1834

ウミキノコ属

群体は上面が平たいキノコ形で、小型のものは冠部が丸いマッシュルーム形だが、大型のものでは短い柄部の上に冠部が幅広く広がって円盤状又はすり鉢状になり、縁は大きくうねって襞になることが多い。ポリプは二型で、多数の小さな通常ポリプと更に小さな管状ポリプが冠部の全面に密に分布する。通常ポリプは細長く伸長することもあり、長い種では長さ3cmを超えることもある。共肉の骨片はウネタケ属に似た紡錘形又は棍棒形だが、ウネタケ属よりはやや大きい。ポリプには骨片は少ないか全く分布しない。褐虫藻が共生しており、群体の色彩は淡黄褐色から褐色のものが多い。太平洋からインド洋の、主として熱帯海域から40種足らずが知られており、サンゴ礁域において普通に見られる構成種である。我が国からは6～7種が知られている。

Genus 14. *Sinularia* May, 1898

カタトサカ属

群体は幅広くて低い柄部の上に様々な形の冠部が発達し、背の高いものは樹状の群体を形成するが背の低いものは殆どカーペット状の群体になる。ポリプは単型で冠部全体に分布する。冠部の骨片は長さ1.5mm以下の棍棒形。柄部の骨片は一般に長さ2mm以上の大きくて太い紡錘形で、共肉中にぎっしり詰まっているので群体柄部をさわると堅い感触がある。褐虫藻が共生しており、群体の色彩は淡黄褐色から褐色のものが多い。太平洋からインド洋の、主として熱帯海域から100種程度が知られており、サンゴ礁域において普通に見られる構成種である。我が国からは17種が知られている。

Family 3. Asterospiculariidae Utinomi, 1951

多肉質、叢状の群体を形成するウミトサカで、ポリプの分布しない柄部は分枝して、各枝の先端には多数のポリプが分布するマッシュルーム形の丸い冠部がある。ポリプは単型。ポリプには莢、花柄部、花頭部の区別はなく、骨片は共肉の表面から触手の背側まで連続的に分布する。触手は収縮するがポリプ全体が共肉中に退縮する事はない。ポリプには羽状突起は認められない。群体内部の胃腔と胃腔の間にはかなり厚い共肉があり、この共肉には中膠が蜂の巣構造をなしている。蜂の巣構造の空隙部分には各1～数個の骨片が納まっている。骨片は全て金平糖形で、脊索動物ジデムニ科のホヤの骨片とよく似ている(Vol. 27, p. 59参照)。共生藻を持つ。ウミトサカ科に含める考え方もある。1属。

Genus 1. *Asterospicularia* Utinomi, 1951

科の記載の通り。*Asterospicularia laurae* 1種のみが台湾から知られている。

POLYCHAETOLOGICA （5）

多毛類の科の検索　3

内田 紘臣

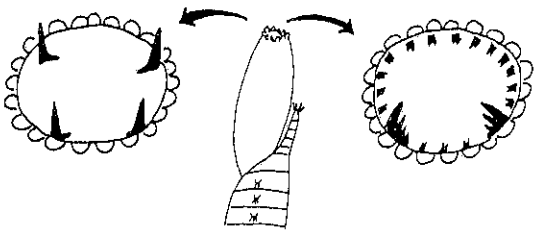
前回(Vol. 28, p. 23)に続き、多毛類の科の検索表をあげる。

24(10,16,19).口吻の先端には4個の同型同大の顎片がある.

チロリ科　Glyceridae

24.口吻の先端には2個の大きな顎片と多くの小さな顎片とが環状にならぶ.

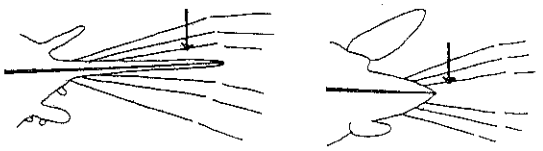
ニカイチロリ科　Goniadidae



25(8,30).疣足は足刺で貫かれた細長い突起をもつ. 浮游性.

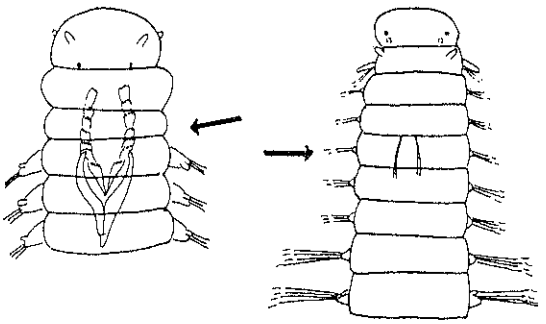
Fam. Pontodoridae

25.疣足は細長い突起をもたない.　26



26(25).口吻に暗褐色のキチン質の顎片を多数もつ. 底棲性.　34

26.キチン質の顎片を欠くか、1対の細い顎をもつ. 浮游性.　15

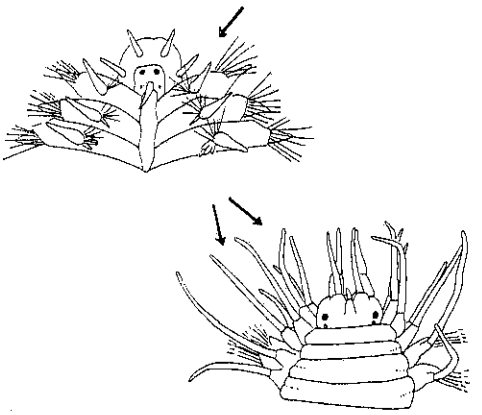


27(7).触手鬚を欠く. 前口葉は、前方に張り出す体前部体節に左右からはさまれ、虫体最先端部より後方に位置することが多い（第2回図3-b）.剛毛は中空で、中に毒液を満たす.

ウミケムシ科　Amphinomidae

27.左右各2本以上の触手鬚をもつ. 前口葉は虫体最先端に位置する. 剛毛は中実.

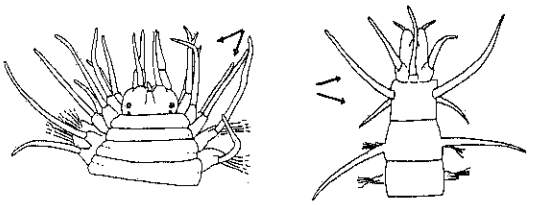
28



28(9,27,29).左右各3本以上の触手鬚をもつ.

オトヒメゴカイ科　Hesionidae

28.左右各2本（背触手鬚と腹触手鬚）の触手鬚をもつ.　29

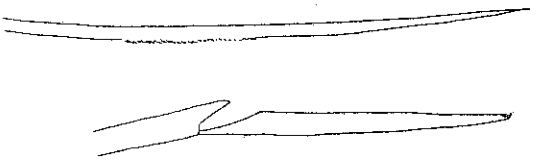


29(28).剛毛は全て単剛毛.

カギゴカイ科　Pilargidae

29.複剛毛をもつ

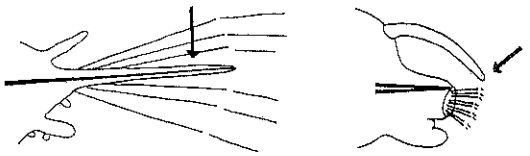
オトヒメゴカイ科　(28)



30(6).疣足は足刺で貫かれた細長い突起をもつ. ソ嚢は背面からの観察で不顕著. 浮游性. 25

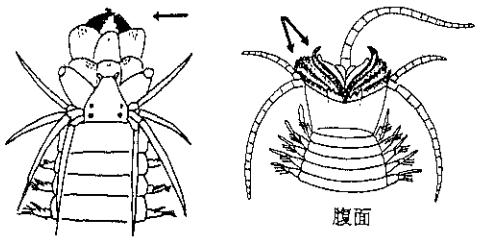
30.疣足は足刺で貫かれた細長い突起を欠く. ソ嚢は顕著（検索表 6. の左図参照）. 底棲性.

シリス科 Syllidae



31(5(注)).大顎は左右一対の鎌状. 32

31.大顎は上顎(maxilla, 複 maxillae)と下顎(mandible)からなり、上顎は左右複数対、あるいはそれに不対板を備える複雑な構造で、通常暗褐色. 上顎は時として種々の程度に退化することがあるが、下顎は常によく発達する.（同背面図は検索表No.35左図参照） 34



(注)第３回検索表No.5を次のように変更する。

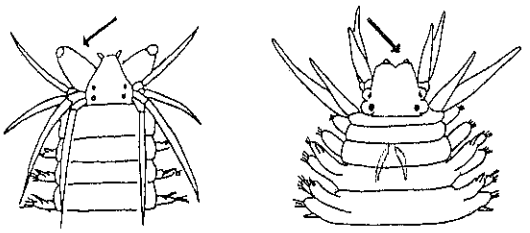
5(4).口吻先端部に、口吻を翻出したときに露出する大型の顎をもつ（前回図4–b）. 31

5.口吻翻出時に露出する大型の顎を欠く（前回図4–a）. 6

32(31,33).前口葉に２分節した大型の副感触手をもつ.

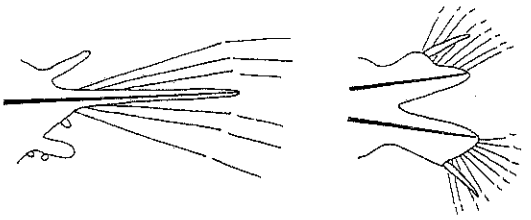
ゴカイ科 Nereididae

32.前口葉先端腹面に分節しない小さな副感触手をもつ.（検索表 No. 8. 右図参照） 33



33(32).疣足は無叉型. 15

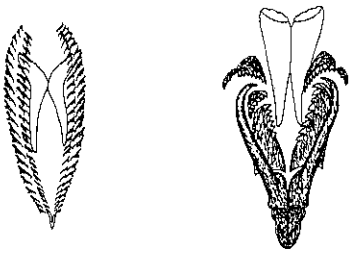
33.疣足は２叉型. ゴカイ科(32)



34(26,31,36').上顎は細かい歯板の列.

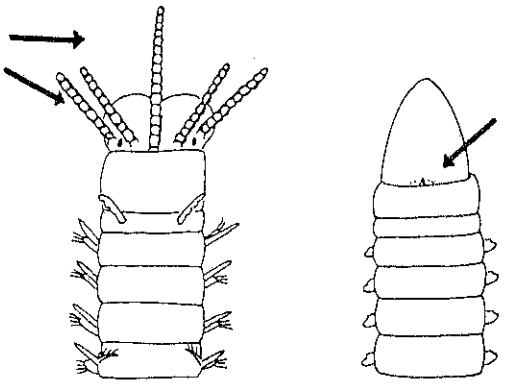
コイソメ科 Dorvilleidae

34.上顎は１～５対の大型の歯板をもつ. 35



35(34). １～７本の目立つ感触手をもつ. 36

35.感触手を欠くか、非常に短い感触手が背面中央部の口節との間の溝の奥にあり、見づらい. 39



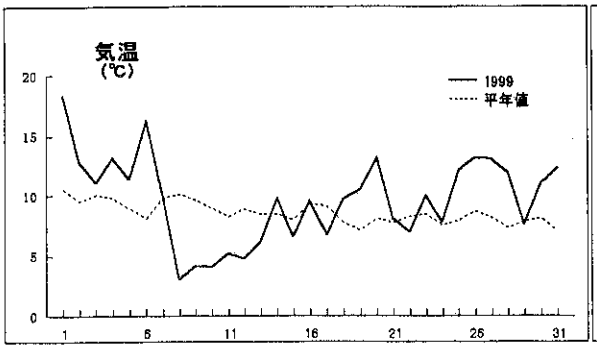
錆浦の海から

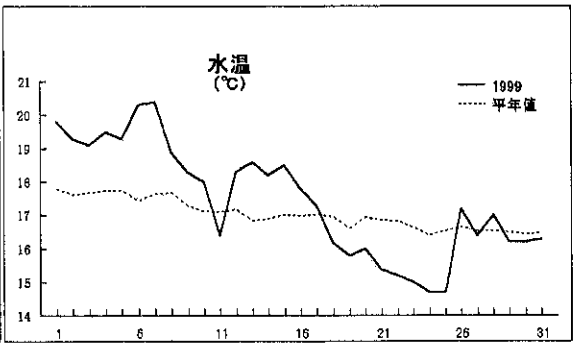
宇井晋介

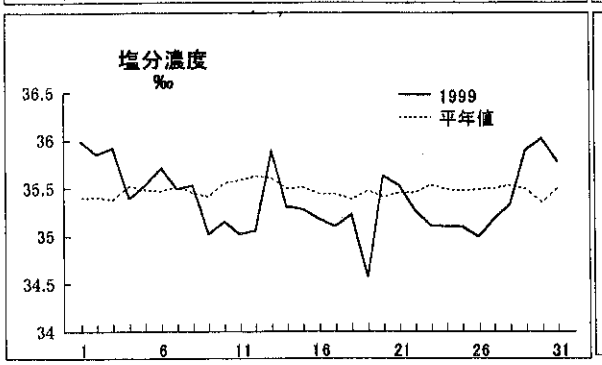
4月 平均値	気温　15.1 ℃	水温　19.2 ℃	塩分　35.30 ‰
	透視度 14.5 m	月間降水量　168. 2 mm	

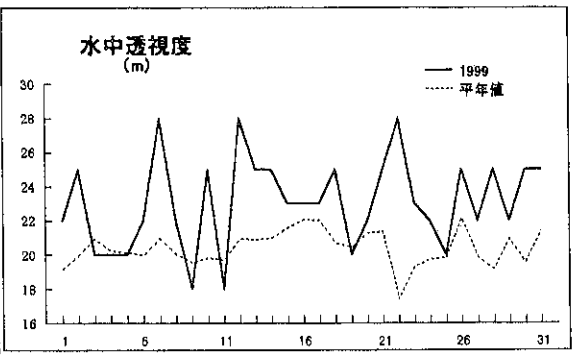
大エビ、タコ、アナゴの３者の関係を「三すくみ」と言う。ソクラテスのたとえ話の中の言葉だが、このアナゴをウツボに代えてもそのまま当てはまる程、タコはウツボの大好物として知られる。

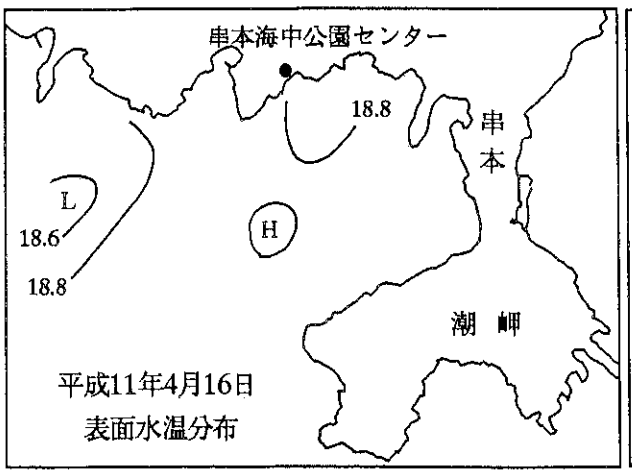
先日おもしろい光景を目にした。海中展望塔の窓の外が騒がしいので見ると、大きなイシダイがウニを食べ始めたところであった。舞い上がる卵を狙って小魚がどっと押し寄せるが、磯の王者イシダイには手出しができず、遠巻きに眺めるだけである。そこへやってきたのがウツボ。普段は大人しいウツボだが、食べ物の匂いをかぐとヒト（?）が変わる。大口を開けて獲物を奪い取ろうとする。が、イシダイも抵抗し獲物を渡さない。ところが次に登場したタコは、まるで両者が目に入らぬかのようにあっと言う間にウニの上に被さってしまった。両者は呆然。しばらくうろうろしていたが、やがてどこかへ立ち去った。どうやら実際の海では、格言通りにはいかないものらしい。











マリンパビリオン Vol. 28, No. 5 通巻 329号
1部 50円（年間購読料 1,500円 送料含む）
印刷日　平成 11 年 5 月 20 日
発行日　平成 11 年 5 月 25 日
口座番号：00990-9-41351
口座名称：串本海中公園マリンパビリオン
編集兼発行人
〒649-3514 和歌山県西牟婁郡串本町有田1157
（株）串本海中公園センター
電話　0735（62）4875
FAX　0735（62）7170
印刷所
坂本印刷
串本町串本2481　Tel: 0735（62）0895